あんぜん

第 2 1 9 号

平成24年4月特別号

近畿地方整備局

発行:企画部 技術調査課

# 平成24年度工事等事故防止重点対策を策定

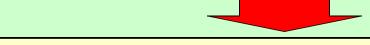
近畿地方整備局では、建設工事等の事故防止のため、平成23年度の事故発生状況を踏まえ、 「平成24年度工事等事故防止重点対策」として下記5項目を定めました。

- 1. 架空線に対する事故防止
- 2. 地下埋設管及び敷設ケーブルに対する事故防止
- 3. 高所作業箇所からの墜落事故防止

※「高所作業箇所」とは、法面・足場等安衛法に規定する高さ2m以上の作業箇所

- 4. 資材・仮設材及び工具の飛来落下事故防止
- 5. 車両管理業務における事故防止





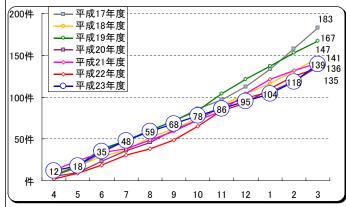
事故防止重点対策における事故が発生した場合の指名停止等の取り扱いについては、従前の措置より厳しくすることとします

# THE LANGE WILL

〔3月31日時点速報値〕

平成23年度における事故発生件数(速報値)は、もらい事故を含む全体が210件、もらい事故を除くと139件となり、昨年から4件の増加になっている。

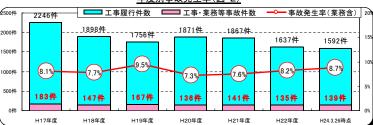
#### 年度別事故発生状況(累計)(図-1)



#### 工事事故発生状況

- ■平成20年度以降多少の増減はあるが年間140件程度の件数が継続しており、例年の中位の発生件数となっている。(図-1)
- ■4~7月は例年の平均を上回る事故が発生していたが、逆に9~1月において例年の平均を大きく下回っていた。
- ■2月以降2ヶ月間の事故件数が、過去最多のH19(50件)に次ぐ、35件と大幅に増加している。

#### 年度別事故発生率(図-2)



#### 事故発生率

■工事等の履行件数(繰越等を含む)が減少する中、事故件数は横ばいで推移しており、事故発生率は平成20年度以降増加傾向となっている。(図-2)

(裏面につづく)

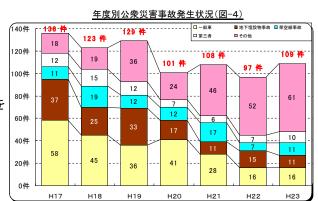
#### 年度別事故分類別発生状況(図-3) 300件 ■第三者事故 ■管理施設捐害事故 ■工事関係者事故 227件 224件 250件 218 件 198 件 78 200件 183 件 167 件 86 71 71 147 件 141 件 139 件 135件 150件 38 33 100件 50件 80 83 57 59 0件 平成17年度 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年月

### 公衆災害事故の発生状況

- ■公衆災害全体では、昨年度から12件増加。(図-4)
- ■第三者人身事故が、昨年から3件増加して4年ぶりに10件を 超える。(図-4)
- ■その他の損害事故は昨年度から9件増加し61件で、全体の 5割を超える。(図-4)特に草刈りにおける電気・通信ケー ブル等(架空線・地下埋設管を除く)の損傷が6件発生。

#### 事故分類別発生状況

- ■工事関係者事故 30件は前年度から8件減少で、平成17 年度以降の下位の発生状況である。(図-3)
- ■管理施設損害事故は前年度から10件増加して50件発生 し、H19年度(46件)を上回る過年度最多の発生状況。 (表-3)
- ■公衆災害(もらい事故を除く)109件は前年度から12件の増加で、 工事事故全体の約79%を占める。(図-4)



## 工事関係者事故 形態別発生状況(図-5) 工事関係者事故の発生状況



■墜落事故は昨年度から5件減少し3件、転倒・滑落は5件増加して7件で最多であった。(図-5)

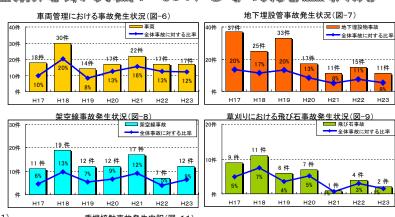
### 工事関係者の死亡・重傷者の事故発生状況

- ■死亡事故の発生状況(前年から1名増加し、2名)
  - ①道路法面点検時に落石防護のネットフェンスの内側で斜面から墜落し、死亡。
  - ②橋梁工事で、安全帯から体が抜け、吊り足場から墜落、斜面を滑落して死亡。
- ■平成22年度に6件発生した熱中症(休業有)が平成23年度は0件。

## 平成23年度 事故防止重点対策項目における事故発生状況

#### 公衆災害事故に係わる重点対策項目

- ■車両管理、地下埋設物事故は、概ね前年度 と同様の発生状況。(図-6,7)
- ■架空線事故は、平成22年度7件と大幅に減少していたが、再び5件増加し12件発生 (図-8)。
- ■飛び石事故は、前年度4件から2件に減少 し、近年の低位の状況を継続。(表-9)





#### 工事関係者事故に係わる重点対策項目

- ※表内の(○/○/○)は、軽傷者/重傷者/死亡者の人数
- ■墜落事故では、吊り足場からの墜落及び法面からの滑落による死亡事故が2件発生。
- ■資材・仮設材及び工具の飛来落下事故では、件数、負傷者数及び、重傷者数も増加している。 トンネル坑内の切羽崩落による事故による重傷者も2名発生している。